

PAT-NO: JP355021205A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 55021205 A
TITLE: STAMP WITH LOCKING DEVICE
PUBN-DATE: February 15, 1980

INVENTOR-INFORMATION:

NAME COUNTRY
OKIGAMI, TERU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY
OKIGAMI TERU N/A

APPL-NO: JP53093192
APPL-DATE: August 1, 1978

INT-CL (IPC): B41K001/36

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a stamp with a locking device to prevent the stamp from thieves in which a supporting disk of the stamp body is provided with radial through holes in which lock pins are fitted to lock a cap.

CONSTITUTION: A supporting disk 7 forming a part of stamp body is provided with a plurality of radial through holes 10 and a pin receiving portion 3 in the central portion which has a pinhole 16. In the through holes 10 are respectively disposed lock pins 9, springs 11 and snap rings 12. An annular U-shaped groove 19 is provided to contact the head 14 of the lock pin in the inner peripheral surface of a cap 17. When a key is inserted into a key plug portion 4 to be rotated about 60°, the bottom 15 of the lock pin occupies a position which does not correspond to the pinhole 16 in the pin receiving portion and the play of lock pin fitted into the U-shaped groove 19 of the cap cannot be absorbed by the pin receiving portion 3 so that the cap 17 cannot be removed from the supporting disk 7 fixed to the body 2.

COPYRIGHT: (C)1980,JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55-21205

⑪ Int. Cl.³
B 41 K 1/36

識別記号

庁内整理番号
6811-2C

⑬ 公開 昭和55年(1980)2月15日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 施錠装置を備えた印鑑

千葉県山武郡大網白里町仏島 5
番地 2

⑯ 特 願 昭53-93192
⑰ 出 願 昭53(1978)8月1日
⑱ 発 明 者 沖上照

⑲ 出 願 人 沖上照
千葉県山武郡大網白里町仏島 5
番地 2

明 細 書

1 発明の名称

施錠装置を備えた印鑑

2 特許請求の範囲

印鑑において、印鑑本体の一部を構成する支持盤 7 の円中心点から円周側面にかけて、貫通孔 10 を放射状に数個穿設し、支持盤中心部には、ピンホール 16 を穿設したピン受部 3 を嵌合し、支持盤の数個の貫通孔 10 には、それぞれ、ロックピン 9、スプリング 11、スナップリング 12 を装着し、キャップ 17 の内周面には、ロックピン頭部 14 の接する位置に、環状の U 溝 19 を設け、開口部内周角 21 は面取りをなしてなる施錠装置を備えた印鑑。

3 発明の詳細な説明

この発明は、実印、職印などの重要な印鑑の盗用防止を目的とするものである。

従来から印鑑の効用は、誠に大きなものであり、個人の印鑑証明書は、市区町村長において発行するが、現在では印鑑登録証明制度の採用により、登録カードを持参すれば、本人でなくとも委任状なしに印鑑証明書の発行が可能であり、実印の盗用が容易に出来るとなれば、本人の意に反する行為が、本人の知らない間に行なわれる可能性が高くなり、実印の保管にあたっては、ますます気を使わねばならなくなった。また、会社、官庁等においても、印鑑の効用は誠に大きく重要な働きをしている。

従来から印鑑の保管については、会社、官庁等においては、書庫、金庫等に他の印鑑や書類と共に保管しているのが普通であるが、個々の印鑑に施錠出来ないで盗用される危険性があり管理者は、保管、取扱等到大変神経を使うものである。また、家庭においては、書庫、金庫等高価であるため、大部分の家庭においては簡単な錠前のついた、たんす、机等の引出しに保管されている場合が多い。



なお、施錠可能な収納設備内に保管されていたとしてもさらに個々の印鑑に施錠しておけばより安全である。

いいかえれば、各々の印鑑に施錠すれば犯罪の未然防止にも役立つ事になる。

つぎに、この発明の構成を図面にしたがって説明すると、1は、印鑑本体2内に回動自在に嵌合したキーブラグで、その先端にはビン受部3を、他端にはキーブラグ部4を備える。このキーブラグ部4からビン受部に至る回動中心線は、本体の円筒中心線と同一線上に設ける。

本体上部5はキーブラグ部4を嵌合し、下部6はドーナツ状のロックビン支持盤（以下支持盤という）7を接合している。支持盤7は、本体2中空部にキーブラグ1を装填の後、数本のビス8によって、本体下部6と固着する。なお支持盤7は図に示すようにドーナツ状の環部を本体2に接している反対面から、さらにドーナツ状にくり抜き、円中心点から支持盤円周側面にかけて放射状に数本（当実施例では3本）のロ

ックビン9を装着するため孔10を設ける。このロックビン9は、スプリング11とスナップリング12とにより、常に放射方向に微力で押圧させている。ロックビン9のスナップリング装着位置は環状に凹溝13を設け、ロックビン外接端の頭部14は、図のように半球形とする。数個のロックビンの頭部14は一定の適当な長さで、支持盤の外周面にそれぞれ突出している。また、数個のロックビン9の他端であるロックビン底部15は、キーブラグのビン受部3に設けたビンホール16に施錠時以外は、常にそれぞれ対応し、キャップ17の着脱時においてはロックビン9の底部15方向への進入障害をなくしている。支持盤7には、ロックビン装着面を覆うかたちで印材18を固着する。

キャップ17の内周面には、ロックビン頭部14の接する位置に、環状にU溝19を設け、開口部内周角21は、キャップの着脱をなめらかにするため面取りを充分にする。

つぎに、本発明の動作状態を図における実施例に



もとずき、説明すると、本体頭部に設けたキーブラグ部4に鍵を差込み右へ約 60° 度回動すると、支持盤7、ロックビン9、ビン受部3の状態は第3図から第5図で示すようにビン受部3のビンホール16が順次回動し、第5図は施錠時の状態となる。すなわちそれぞれのロックビン9はスプリング11とスナップリング12とによって、常に微力ながら放射方向に押圧されているので鍵により、ブラグ部4を回動すればビン受部3は常に自由に回動する。第3図の状態ではビンホール16が、ロックビン底部15と対応しているので、キャップの着脱は自由であるが、第5図の状態になると、ロックビン底部15はビン受部のビンホール16と対応していないためキャップU溝19に嵌入分のロックビン遊びがビン受部3で吸収できずキャップ17は本体2に固着された支持盤7から抜き取れなくなるので施錠できる結果となる。

第6図、第7図は、解錠時のキャップ17の着脱状態を示すものである。

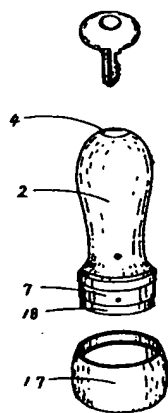
以上の説明で述べたように、施錠時には印面20を覆っているキャップ17が、印鑑本体2と固着された支持盤7から取り外せなくなるので、鍵所持者以外は、その印鑑を自由に使用できなくなり、印鑑の盗用を防止することができる。

4 図面の簡単な説明

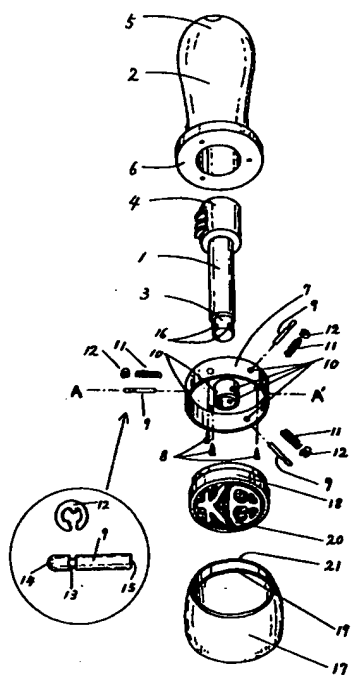
第1図は斜視図である。第2図は分解斜視図、第3図から第7図までは共に作動状態を示す図であり、第3図、第4図、第5図は、第2図中A-A間の横断面で、第6図と第7図は縦断面である。

特許出願人 沖 上 照

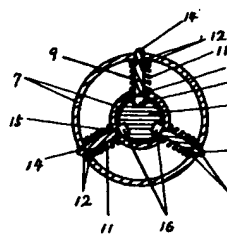
第 1 図



第 2 図



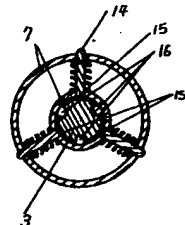
第 3 図



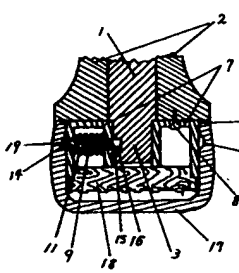
第 4 図



第 5 図



第 6 図



第 7 図

